

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成28年11月10日(2016.11.10)

【公表番号】特表2014-518878(P2014-518878A)

【公表日】平成26年8月7日(2014.8.7)

【年通号数】公開・登録公報2014-042

【出願番号】特願2014-512079(P2014-512079)

【国際特許分類】

A 0 1 N	63/02	(2006.01)
A 0 1 P	3/00	(2006.01)
A 0 1 N	63/00	(2006.01)
A 0 1 N	43/90	(2006.01)
A 6 1 K	45/06	(2006.01)
A 6 1 P	31/10	(2006.01)
A 6 1 K	31/7048	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
A 6 1 K	35/74	(2015.01)

【F I】

A 0 1 N	63/02	G
A 0 1 P	3/00	
A 0 1 N	63/00	A
A 0 1 N	63/02	E
A 0 1 N	43/90	1 0 1
A 6 1 K	45/06	
A 6 1 P	31/10	
A 6 1 K	31/7048	
A 6 1 P	43/00	1 2 1
A 6 1 K	35/74	

【誤訳訂正書】

【提出日】平成28年9月7日(2016.9.7)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0093

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0093】

[00100] 多様な組み合わせの相乗効果を示す結果を図5及び表3に示す。出願人は、本実験で使用した濃度のサーファクチンとナイスタチンの間では相乗効果が見られなかったことを注記する。最終濃度を変更すれば、相乗効果が見られると予想される。実施例9末尾の同様の状況に関するコメントを参照されたい。

【表3】

1.12ppm での所与の化合物の増加率(%)			Gowing の方程式		
粗リポペプチド	ナイスタチン	ナイスタチン + リポペプチド	Exp	Eob	相乗効果 の有無
110.8	96.2	76.9	-6.6	23.1	有り
イチュリン	ナイスタチン	ナイスタチン + イチュリン	Exp	Eob	相乗効果 の有無
110.4	96.2	57.5	-6.2	42.5	有り
フェンジシン	ナイスタチン	ナイスタチン + フェンジシン	Exp	Eob	相乗効果 の有無
109.8	96.2	71.4	-5.1	28.6	有り
サーファクチン	ナイスタチン	ナイスタチン + サーファクチン	Exp	Eob	相乗効果 の有無
112.5	96.2	99.2			無し

【誤訛訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0099

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0099】

[00106] 多様な組み合わせの相乗効果を示す結果を図7及び表5に示す。

【表5】

2.23ppm での所与の化合物の増加率(%)			Gowing の方程式		
粗リポペプチド	ナイスタチン	ナイスタチン + リポペプチド	Exp	Eob	相乗効果 の有無
118.9	30.5	8.8	63.7	91.2	有り
イチュリン	ナイスタチン	ナイスタチン + イチュリン	Exp	Eob	相乗効果 の有無
121.3	30.5	25.1	63	74.9	有り
フェンジシン	ナイスタチン	ナイスタチン + フェンジシン	Exp	Eob	相乗効果 の有無
119.8	30.5	13.9	63.4	86.1	有り
サーファクチン	ナイスタチン	ナイスタチン + サーファクチン	Exp	Eob	相乗効果 の有無
114.3	30.5	26	65.1	74	有り

【誤訛訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0106

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0106】

[00113] 多様な組み合わせの相乗効果を示す結果を図9及び表7に示す。

【表7】

0.56ppm での所与の化合物の増加率(%)			Gowing の方程式		
粗リポペプチド	ナイスタチン	ナイスタチン + リポペプチド	Exp	Eob	相乗効果 の有無
104	96.5	71.4	-0.35	28.6	有り
イチュリン	ナイスタチン	ナイスタチン + イチュリン	Exp	Eob	相乗効果 の有無
102.1	96.5	49	1.5	51	有り
フェンジシン	ナイスタチン	ナイスタチン + フェンジシン	Exp	Eob	相乗効果 の有無
106.7	96.5	62.8	-2.9	37.2	有り
サーファクチン	ナイスタチン	ナイスタチン + サーファクチン	Exp	Eob	相乗効果 の有無
102.9	96.5	83.9	0.7	16.1	有り

【誤訛訂正4】

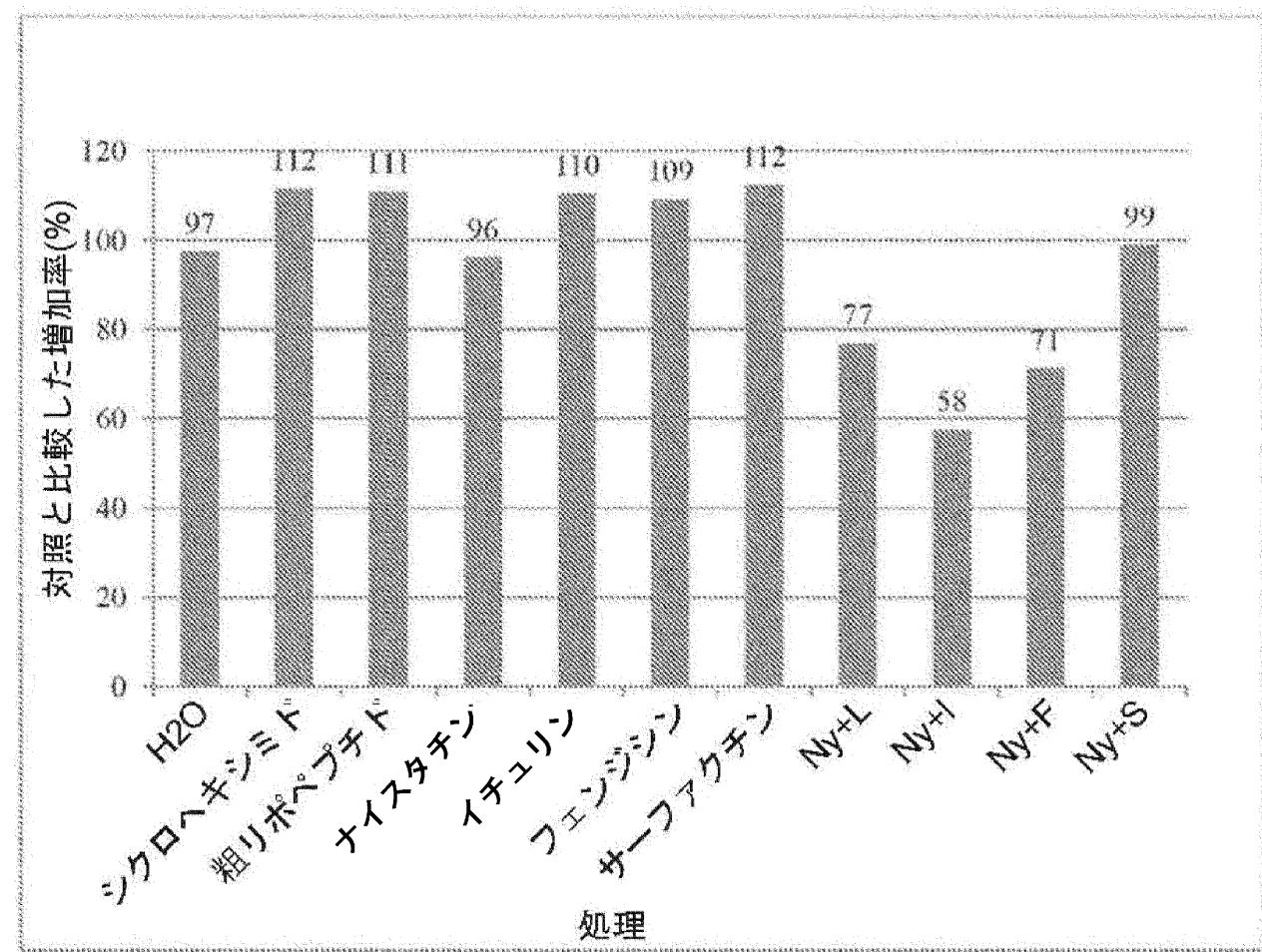
【訂正対象書類名】図面

【訂正対象項目名】図5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【図5】



【誤訛訂正5】

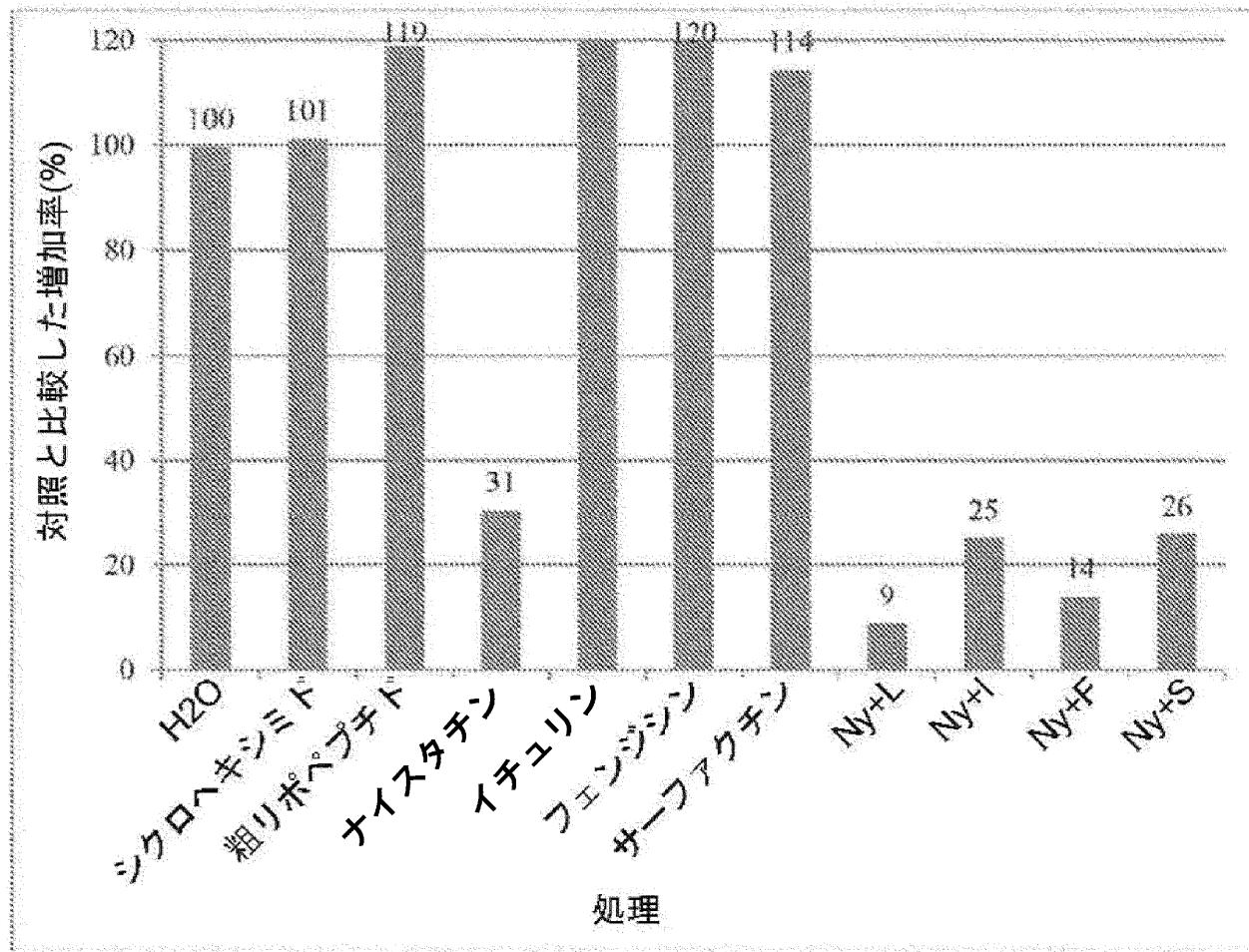
【訂正対象書類名】図面

【訂正対象項目名】図7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【図 7】



【誤訛訂正 6】

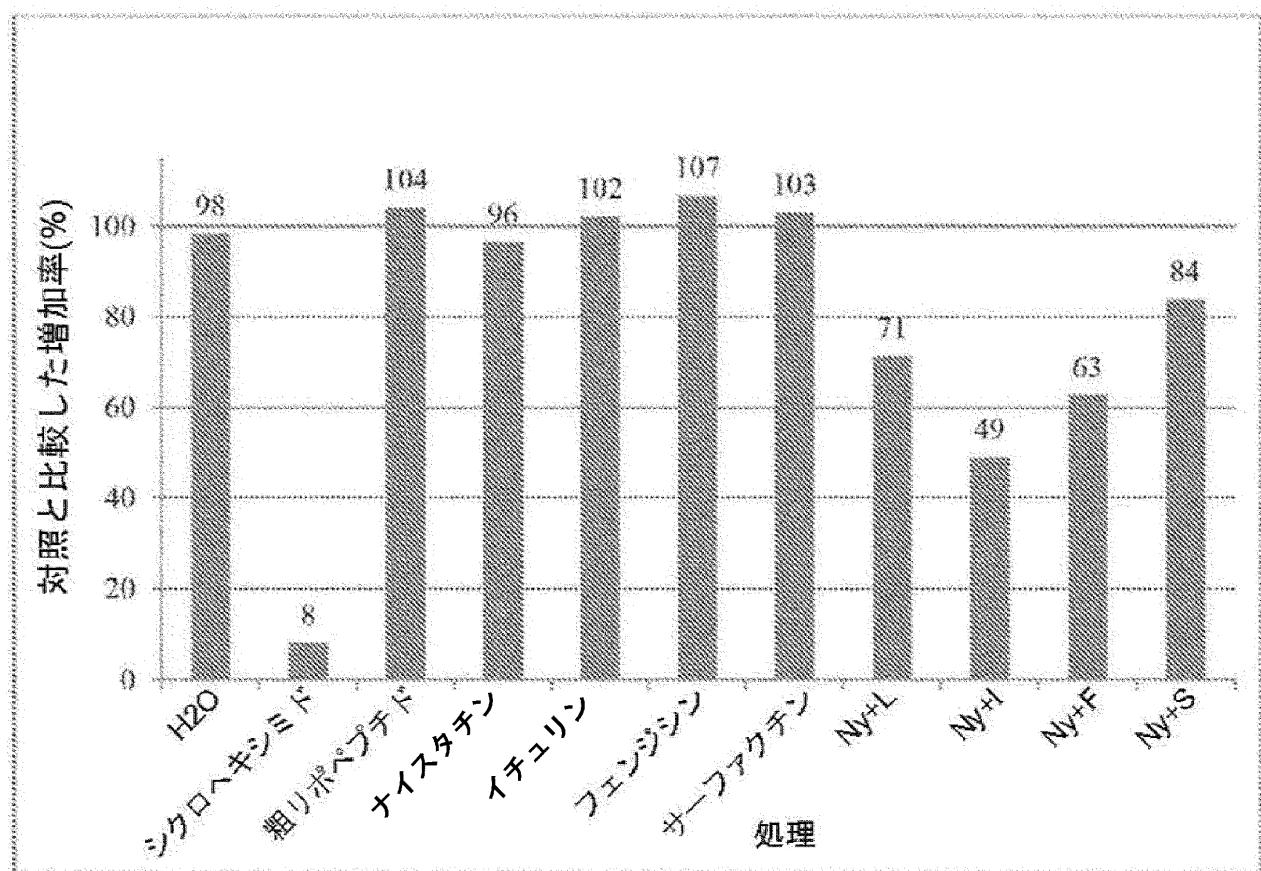
【訂正対象書類名】図面

【訂正対象項目名】図 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【図9】



【誤訛訂正7】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ナタマイシン及びナイスタチンからなる群から選択されるポリエン系殺菌剤及び少なくとも1つのリポペプチドであるイチュリン型化合物の相乗的殺菌剤の組み合わせを含む組成物であって、前記ポリエン系殺菌剤と前記少なくとも1つのイチュリン型化合物との重量比が100:1から1:100である前記組成物。

【請求項2】

さらに、1つ又は複数のフェンジシン型化合物を含む、請求項1に記載の組成物。

【請求項3】

さらに、1つ又は複数のサーファクチンを含む、請求項1に記載の組成物。

【請求項4】

イチュリン型化合物が、イチュリンAである、請求項1に記載の組成物。

【請求項5】

イチュリン型化合物が、バシロマイシンである、請求項1に記載の組成物。

【請求項6】

前記少なくとも1つのリポペプチドが、リポペプチド含有発酵産物の一部又は抽出物である、請求項1に記載の組成物。

【請求項7】

前記リポペプチド含有発酵産物が、バチルス属の種の細菌に由来する、請求項6に記載の組成物。

【請求項8】

前記バチルス属の種の細菌が、枯草菌又はバチルス・アミロリクエファシエンスからなる群から選択される、請求項7に記載の組成物。

【請求項 9】

前記枯草菌が、枯草菌 Q S T 7 1 3 及びその変異株からなる群から選択される、請求項8に記載の組成物。

【請求項 10】

前記ポリエン系殺菌剤が、ナタマイシンである、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 11】

前記ポリエン系殺菌剤が、ナイスタチンである、請求項1に記載の組成物。

【請求項 12】

前記ポリエン系殺菌剤と前記少なくとも 1 つのイチュリン型化合物との重量比が、約 10 : 1 ~ 約 1 : 10 である、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 13】

前記ポリエン系殺菌剤と前記少なくとも 1 つのイチュリン型化合物との重量比が、約 5 : 1 ~ 約 1 : 5 である、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 14】

前記ポリエン系殺菌剤と前記少なくとも 1 つのイチュリン型化合物との重量比が、約 2 : 1 ~ 約 1 : 2 である、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 15】

前記ポリエン系殺菌剤と前記少なくとも 1 つのイチュリン型化合物との重量比が、約 1 : 1 である、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 16】

処置を必要とする領域に有効量適用することにより病原真菌を制御するための、ナタマイシン及びナイスタチンからなる群から選択されるポリエン系殺菌剤と少なくとも 1 つのリポペプチドであるイチュリン型化合物の相乗作用を有する組み合わせを含む組成物であって、前記組成物中の前記ポリエン系殺菌剤と前記少なくとも 1 つのイチュリン型化合物との重量比が 100 : 1 から 1 : 100 である前記組成物。

【請求項 17】

さらに、1 つ又は複数のサーファクチンを含む、請求項16に記載の組成物。

【請求項 18】

さらに、1 つ又は複数のフェンジシン型化合物を含む、請求項16に記載の組成物。

【請求項 19】

前記ポリエン系殺菌剤が、ナタマイシンである、請求項16に記載の組成物。

【請求項 20】

前記ポリエン系殺菌剤が、ナイスタチンである、請求項16に記載の組成物。

【請求項 21】

前記ポリエン系殺菌剤と前記少なくとも 1 つのリポペプチドとの重量比が、約 10 : 1 ~ 約 1 : 10 である、請求項16に記載の組成物。

【請求項 22】

前記ポリエン系殺菌剤と前記少なくとも 1 つのリポペプチドとの重量比が、約 5 : 1 ~ 約 1 : 5 である、請求項16に記載の組成物。

【請求項 23】

前記ポリエン系殺菌剤と前記少なくとも 1 つのリポペプチドとの重量比が、約 2 : 1 ~ 約 1 : 2 である、請求項16に記載の組成物。

【請求項 24】

前記ポリエン系殺菌剤と前記少なくとも 1 つのリポペプチドとの重量比が、約 1 : 1 である、請求項16に記載の組成物。

【請求項 25】

前記少なくとも 1 つのリポペプチドが、リポペプチド含有発酵産物の一部又は抽出物である、請求項16に記載の組成物。

【請求項 2 6】

前記リポペプチド含有発酵産物が、バチルス属の種の細菌に由来する、請求項2 5に記載の組成物。

【請求項 2 7】

前記バチルス属の菌が、枯草菌 Q S T 7 1 3 及びその変異株である、請求項2 6に記載の組成物。

【請求項 2 8】

前記領域が収穫後の食品であり、前記病原真菌が収穫後病原体である、請求項1 6に記載の組成物。

【請求項 2 9】

前記収穫後病原体が、ペニシリウム属の種又はジオトリクム属の種である、請求項2 8に記載の組成物。

【請求項 3 0】

前記領域が植物、根、種子又は植物周囲の土壤であり、前記病原真菌が植物病原真菌である、請求項1 6に記載の組成物。

【請求項 3 1】

前記領域が食品又は飼料であり、前記ポリエン系殺菌剤がナタマイシンである、請求項1 6に記載の組成物。

【請求項 3 2】

前記領域がヒト又は動物であり、前記病原真菌がカンジダ属である、請求項1 6に記載の組成物。

【請求項 3 3】

前記ポリエン系殺菌剤が、ナイスタチンである、請求項3 2に記載の組成物。

【請求項 3 4】

前記領域がヒト又は動物であり、前記病原真菌がコウジカビ属の種又はフザリウム属の種であり、前記ポリエン系殺菌剤がナタマイシンである、請求項1 6に記載の組成物。